

第2回 教育活動活性部会 議事録

日時 : 令和4年1月13日(木) 16:10~16:45

参加者 : 萬谷恵三子、佐藤豊、渡邊道子、林巧樹、梶田菜穂子、市川慎二、長澤利恵子、
渡邊健、佐々木悦郎、五反田淳、内藤伯香

副校長 : 時間になりましたので、教育活動活性部会を始めます。

総合的な探究の時間の資料の確認をお願いします。

本校では、来年度に向けて改革を検討しております。AGE28という校内組織でワーキンググループをつくってござりまして、リーダー内藤よりご説明します。

内藤 : 総合的な探究の時間についてご説明します、進路支援グループ内藤です。

まず、表面を御覧ください。「2 進路指導」については、本来はLHRで実施する内容と重なっているため議論を重ねました。

3年間の流れについて説明します。1年生では、きちんと課題を設定し、思考プロセスを身につけることを目標としています。1学期は思考をテーマに、2学期からはSDGsと結びつけて発表活動を行います。2年生では、グループで探究活動を行い、修学旅行とからめています。一人ずつの役割を決めて、調べ学習のみで終わらないように、例えば旭高校周辺と沖縄の比較など、分析を深めて、探究活動にしていければと考えています。グループ内でテーマは設定しますが、修学旅行に行った際に仮説を検証できるような、修学旅行がフィールドワークの場になるといいと考えています。3年生では、思考プロセスとフィールドワークと進路をからめて、自由にテーマを決めて発表することを考えています。

指導コンセプト案は、地域の力を借りること、実験、アンケートを作成するなどして、生徒のめざす姿にあるように、テーマに関してチャレンジする力をつけたいと考えています。

表面に戻っていただきまして、1年生の流れの詳細についてですが、オリエンテーションから始めて、産能プログラムを活用させていただき、SDGsの理解を深めたり、情報収集をしたりして、最終的に本日のような発表会にする流れです。ここについては、こちらの会でアドバイスをいただき、職員全体に提示し、研修の実施も予定しています。

副校長 : 先程、本日の授業の感想もいただいたところですが、具体的に今後のプログラムについてもっとこういうふうにとご意見をいただけたらと思います。よろしくお願いします。

渡邊 : 1年生2学期の、自身の高校生活を振り返り、課題の設定とありますが、先生がこういうテーマがでてくるといいなというのは、どのようなイメージですか。

内藤 : そうですね。例えば、スマホの使いすぎについて、スマホの中毒性なども言われますが、どうポジティブに使えるかですとか、SDGsとからめて電気自動車の普及により普段乗っているバスの変化はどうなるのか、といった環境に対してのことでし

ようか。普段の生活を書き出してみても、社会問題とからめながら、考えていけたらいいのかなと思います。

渡邊 : SDGsと必ず紐づけますか。

内藤 : 社会貢献を考える中で、社会問題として生徒にとって親しみやすいSDGsを取り上げられたらいいのかなと思っています。ただ本校1年生が使っている冊子では、到達目標の17個よりしぼって提示しています。

渡邊 : ありがとうございます。

佐藤 : スクールポリシーにもありますが、総合的な探究の時間では、教科で学んだことを総合的に活用して生きていこうということだと思っているので、そこに導くガイドがあってもよいと思います。

でも、はまりきらないことが大切です。例えば、臨床心理士はSDGsの到達目標として、項目として入っていない、でもその、はまらないことが大事です。心理的な疾患については、国連は2030年には到達できないと考えているのかなと、考えとして、ひっかかることが大切です。

あと、評価をどうするのかという問題があります。3年間の探究スパイラルと進路をどう重ねていくか、2年生の修学旅行を絡めながらやっていくのは現実的にあると思いますが、1年の学びと2年を結びつけていく時に、SDGsという視点があると、見られる視点があるなと思います。神奈川と比較などもできますよね。

それから、グループ活動はよいですが、必ず個人に帰着させるようにしないと、グループの誰かがよい発表をして、それでいいかとなってしまいます。

また、通常の教科学習と同じで考えないことも大切ですね。もっとくずしてしまってもいいのでは。体育館で発表会の形式でやって、ブースごとに聞きたい所に行きなさいとかですね。3年間でパターンをかえて、発表の方法もいろいろにして、最終的に言語能力や情報活用能力がついていけばやってよかったなと生徒が思えます。

大学生も、8割はプレゼンを得意にしていますが、根拠のない情報をひっばってきってしまう子も多いので、批判的な思考を持って情報にむきあう姿勢をつくることも大事なかなと思います。

そして、評価の視点です、どういった評価スケールを共通で出していくのかなと思います。アウトプットの力を評価としてどういうふうに設定していくかを課題ですね。

梶田 : 今日の発表はこういうふうにするからってテキストがあるのでしょうか。いつまでに発表とタイトルだけですか。それとも、詳細なマニュアルのようなものがあるんですか。

佐々木 : 進路指導の中で、1年で職業を調べる活動はずっとさせていました。それと持続可能な社会の現在、SDGsを意識してもらえると提示しました。職業を知る、そし

て、その職業は、社会の中でどういう役割があり、SDGsとしては、どれに到達しているのかという流れです。

梶田 : 私も高校生の時、そうでしたが、やりたい職業がないという生徒さんはいないのですか。

佐々木 : 職業や仕事まで行かない子もたくさんおります。そういう生徒は、興味関心から考えて、現在の興味関心があることはどんな職業に結びつきそうかというところで今回の発表にたどりつきました。

副校長 : ありがとうございます。他にご意見はありませんか。

林 : 総合的な探究の時間の学校目標として、「自己実現と社会貢献につながる自己のあり方」とありますが、これはかなり難しいと思うのですが、この言葉を生徒にどう伝えていらっしゃるのですか。

佐々木 : まずは、「なりたい自分」を考え、社会の中でどう関わりを持っていくのというところからスタートしています。

林 : 3年間の探究学習をして、学校として自己のあり方を考えていける人になろうという感じですか。

佐々木 : 将来にわたって、意識して、高校で完結できることではないかなと思ってます。

林 : くどいようですが、1年生から3年生になって、この学習をすることでこういう力がつき、こういうふうな人材になっていくんだ、高校3年間ではここまで行ってほしいということが、この目標かなと思いますが、それが生徒に伝わらなければ生徒には響かないのではないのでしょうか。

例えば、SDGsを知ってほしいのは、なぜなのか。17の到達目標には、上位概念と誰もが理解しやすいことがあります。旭高校として、何をやるのか、SDGsは何のためにやるのか、こだわりがないと生徒は言葉を知るだけに終わってしまうのではという懸念があります。

五反田 : 中学校の先生がいらっしゃるのでぜひお話を聞きたいです。私は、昨年まで中高一貫校におり、中1の担任でした。カリキュラムとして、全員タブレットを持ってやっていて、中学3年過ごして、高校にあがっていきます。

こちらに転勤してきて、1年生がどう中学生生活を過ごしてきたかある程度はわかりますが、高校にずっといる先生はなかなかわからないと思います。例えばSDGsについても学力の差はありますが、中学校でやってきた内容を知れば、もっと高校でやることは違ってくると思います。

今日の発表会も一方通行でしたが、もっとかけあいになって行って、答えがなくていいのかなと思います。答えでないことに対して、どうトライしていくのが大事、その時に他の生徒の話聞いて深まったりもしていきます。中学校のお話、ぜひお願いします。

萬谷 : 私は家庭科の教員なので、本校の家庭科についてのSDGsについてご紹介します。SDGsは視点を分けて、調理実習に臨みます。バーチャルウォーター、食料自給率、食品選択といったグループに分かれて、学習に臨み、Chroombookのスプレッドシートで理解した内容を共有し、調理実習をします。エキスパートグループを作って、実習後、発表して、考えると、違う内容のことにも興味が広がるというサイクルにしています。SDGsについては、小学校でもやっているの、中学校はみんな知っているという前提でやっています。

五反田 : そうですね、バーチャルウォーターについては、小学生も知っていますよ。高校に入ってきた時に、「知ってるよ」となって盛り上がりにかける部分もあるのかなと思います。高校でSDGsでいいのという思いもあります。エキスパートをつくって活動っていいですね。高校の先生は高校がスタートって思っています。

梶田 : 旭中には、「あさひの時間」という総合の時間が3年間あります。最初は、発表も手書きでしたが、最近はPCを使って、発表も場数を踏んでいるので上手になっています。発表者もクラスで選び、周囲の生徒が採点します。相互作用が起こり、発表することが結論ではなく、発表までの過程がすごく大事なのかなと思います。

旭高校は運動のイメージがありますが、そこで発表会のような文化的なことをやることに意味があると思います。「勉強できなくても」「旭なら」と親たちは思っていますが、先生方もお忙しいと思いますが、ぜひ体育館などでそうした文化的な発表会ができればと思います。サッカーがうまいと同じで、発表が上手という見方があってもいいな、そういう雰囲気が旭高校で生まれればなと思います。

副校長 : ありがとうございます。幼稚園ではいかがですか。

市川 : SDGsは幼稚園でも意識しています。親の職業とのつながりと考えてみようなどはずっとやっています。高校でやるなら、SDGsに中心を置くよりも、やっていったら実はSDGsだったと気付ける仕掛けがあるといいかなと思います。

五反田 : もう、SDGsは普段の生活で意識していますからね。

佐藤 : 小中高とどの教科でも、ずっと学ぶ分野はあります。高校なりのやり方はあるのかなと思います。例えば、2030年にはガソリン車がなくなることは、職業に直結していることですね。そうなる自分のやりたいことは将来どうなるのといったことを、総合的に考えるようになるのでは。

今日の発表会でも、まとめとして「もっと勉強しましょう」のゴールでは小学生と同じことになってしまいますよね。ぜひ、時間を作っていただいて、小中学校の授業を見に行かれるといいですよ。校種が下がれば下がるほど、発表が上手です。高校生になると発表が嫌いになってしまっていますよね。

渡邊 : 正しいことを言わないといけない気になってしまうのでしょうかね。

佐藤 : 校長先生の動画の雰囲気を見る限り、きっと部活の時にはもっとコミュニケーションをとって、がちゃがちゃやってそうですよね。活発に。そういった雰囲気で総合に向かわせてもいいのではないのでしょうか。

副校長 : ありがとうございます。本日は素の授業を見ていただき、もう少しかっこつけてもよかったのかなとも思いますが、素だからこそ、貴重なご意見いただいたなと思います。今日のご意見を参考にさせていただき、来年度の新カリのスタートを切って、旭高校をもっと活性化させていきたいと思っております、本日はありがとうございました。